

第13回 北陸銀行若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
菅沼健太郎	人間社会研究域歴史言語文化学系・助教		60万円
研究課題名	富山市方言のプロソディ（アクセントとイントネーション）に関する研究		
研究の概要	<p>〔研究開始当初の背景、研究の目的、研究の方法等について記入〕</p> <p>複数の言語を対照し言語間の異同を整理することは、世界の言語に共通する特徴（通言語的特徴）の発見に寄与する。助成金受給者（菅沼）はこのような考えの下、これまでプロソディに関する通言語的特徴の発見に寄与する研究を行ってきた。このような背景の下、本研究では従来あまりプロソディ研究では注目されていなかった富山市方言を対象とし、方言話者への聞き取り調査を通して以下の3つの目標を達成することを目指した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 品詞や語種ごとに単語のアクセントパターンを記録する。 文タイプごとにイントネーションパターンを記録する。 1と2で記録したパターンを導くアクセント規則とイントネーション規則を明らかにする。 		
研究の成果	<p>〔成果の具体的内容、意義、重要性及び今後の展望等について記入〕</p> <p>内容：①同方言の複合語や外来語のアクセントパターンを明らかにし、東京方言との間に規則的な異同がみられることを明らかにした。②同方言では「待った」「育った」など、「っ」を含む動詞のアクセントパターンは一見複雑であるが、「っ」を“アクセント上存在しない要素”（専門的に言えば“拍を担っていない要素”）と仮定すると非常に簡単なパターンとして説明できることを示した。③先行研究では同方言の感嘆文では平らなイントネーションが現れるとされていたが、擬音語など、感嘆文内の要素によってはその平らなイントネーションの出現阻止がみられることを示唆した。</p> <p>意義：富山市方言のプロソディが対照研究に資する豊富な特徴をもっていることを示唆した。特に②のようにある種の音が拍を担っていないと目される言語の存在は、北米先住民の言語など、日本語とは系統関係にない言語ではすでに報告がなされており、富山市方言はそれらと共通性があることになる。このように系統関係にない言語同士に共通する特徴を見出すことは通言語的特徴の発見に近づくことを意味する。</p> <p>展望：今後は、富山県の他地域や福井や石川など、他の北陸諸方言も対象とし、①～③に関して富山市方言と異同がみられるかを明らかにしていきたいと考えている。</p>		
研究成果発表状況	<p>〔雑誌論文、学会発表、図書、新聞掲載、研究に関連して作成したWebページ等について記入〕</p> <p>査読なし学会発表2件</p> <ol style="list-style-type: none"> 菅沼健太郎「富山市方言のプロソディに関する予備的考察」2022年3月、2021年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会（オンライン開催） 菅沼健太郎「富山県富山市方言のアクセントに関する調査報告」2022年3月、第3回金沢言語学フォーラム（オンライン開催） 		
経費の執行状況	費目	事項 (主な使用事項を記載)	執行額(円) (費目毎総額を記入)
	物品費	富山市シルバー人材センターへの方言調査協力業務依頼	176,837
	旅費		0
	人件費・謝金	データ整理謝金	364,800
	その他	図書	58,363